

令和7年度 第3回八潮市公共施設マネジメント推進委員会

開催日時	令和7年10月3日(金) 午後2時00分から午後3時25分まで
開催場所	会議室3-2
傍聴人数	0人
審議内容及 び審議結果 の概要	【令和7年度 第3回八潮市公共施設マネジメント推進委員会】 1 開 会 2 会 議 議 事(議事進行:委員長) (1) 市民アンケート結果(速報)について (2) 公共施設マネジメント基本計画の変更点について (3) 公共施設マネジメントアクションプランの方向性について 3 その他 4 閉 会
提供資料	<配布資料一覧> 資料1:令和7年度第3回 八潮市公共施設マネジメント推進委員会 資料 ≪ファイル資料≫ ① 八潮市公共施設マネジメント推進委員会 委員名簿 ② 八潮市公共施設マネジメント推進委員会規則 ③ 八潮市附属機関の会議の公開に関する規則 ④ 八潮市公共施設マネジメント白書・八潮市公共施設マネジメント基本方針概要版 ⑤ 八潮市公共施設マネジメント基本計画概要版 ⑥ 八潮市公共施設マネジメントアクションプラン概要版 ⑦ 八潮市公共施設マネジメントアクションプラン見直し版

《議事詳細》

1 開 会

2 会 議

(1)議 事

1)市民アンケート結果(速報)について

市民アンケート結果の速報として、9月29日時点の回答数は725人、回答率24.2%であり、前回より回答率が低下した。このため、次回はオンライン回答方式を取り入れる等の工夫が必要である旨について説明した。また、前回会議で提案を受けた18歳未満のアンケートについて、八潮南高校1年生に向けてアンケートを実施中である旨について説明した。

〔委員長〕

市民アンケート中、回答者の通勤・通学の状況について、通勤・通学していない方の割合が多いが、これをどう分析しているか。

〔事務局〕

設問は、八潮市内に通勤・通学しているかという内容となっており、市内ではなく市外に通う方が多いという結果になった。

〔委員長〕

市外への通勤・通学についての問いは設けているのか。

〔事務局〕

設けていない。なお、八潮市での居住理由を聞いた設問では、通勤・通学に便利のためという回答が最も多かった。

〔委員〕

TX ができて東京へのアクセスが便利になり、利用者も多い。

〔委員長〕

維持すべき施設及び廃止すべき施設の優先順位については、年代別や居住によって回答を分析したほうが良い。

〔副委員長〕

年代と地域をクロスしたものを最終的には分析するのか。

〔事務局〕

本日は速報ということで、単純集計データのみを記載した資料を配布させていただいており、ご指摘のような分析については、これから実施することとしている。いただいた意見も踏まえながら、進めてまいりたい。

2) 公共施設マネジメント基本計画の変更点について

施設種類ごとのサービス圏益に関する基本的な考え方について、「利用者が地域に限定されない」施設、「利用者が属性に限定される」施設を、集約化・複合化の検討対象とする現計画の考え方を踏襲しつつも、例外を設ける必要がある旨を説明した。建物の長寿命化の実施方針について、他の施設関連計画と考え方の齟齬が生じているため、目標耐用年数を目標使用年数に改めるとともに、目標使用年数を延長する旨について説明した。併せて、施設の長寿命化に伴う改修周期を変更する旨について説明した。

〔副委員〕

目標使用年数を80年としているが、国のガイドライン等で定められているのか。

〔事務局〕

文科省のガイドラインで示されている。併せて、公営住宅の計画でも80年と定められている。市内の施設に関する計画において考え方の齟齬が生じているため、整合させるための変更が必要と考えている。

〔委員長〕

施設の使用頻度等によって状況は変わる。今回、目標使用年数及び改修周期を整理しようとしているが、これはあくまでも目安であり、必ずしもその通りにはならないということも認識しておく必要があるのではないか。

〔事務局〕

現計画では、15年目を最初の改修周期としているが、30年改修で手一杯となっており、15年改修を実施できていないのが実情である。次期計画においては、改修周期

を延長する方針としているが、その分、点検をしっかり行うことがより重要となり、危険性が確認された場合には、改修周期に当てはまらない場合であっても、対策を講じるということを、次期計画に明記する必要があると考えている。

〔委員〕

経費を削減するためには早めに点検を行い、早期に発見し、改修していくことが重要だと考える。

〔委員長〕

周期ごとに改修部位が決められているが、実際は周期ごとに進まないという理解で良いか。

〔事務局〕

計画で示す改修周期と改修内容は目安であり、フィルターのような役割を果たすことになると思うが、実際に改修を実施する際には、この考え方を参考としながら、各施設の具体的な状況等を踏まえて改修内容を決定する必要がある。

〔委員長〕

個別施設ごとの改修計画や点検結果によって改修時期が変わってくるということについては、市民にも分かりやすいように明記したほうが良い。

3) 公共施設マネジメントアクションプランの方向性について

公共施設マネジメントアクションプランの方向性について、次期計画期間において、市民体育施設・文化施設・高齢者福祉施設・給食センター・北部エリアの施設の整備事業が主要事業となる予定であり、施設ごとに現計画の取組状況と次期計画期間の取組みの方向性について説明した。

〔委員長〕

新スポーツ施設について、サービス圏益に関する基本的考え方に則ると原則として市に1施設という話だが、これから市として整備構想をもう一度見直すという理解で良いか。

〔事務局〕

その通り。施設ごとに築年数が異なっており、特にエイトアリーナは国体に合わせて整備されたため、他の2施設よりも新しく、また増築棟もオープンしたばかりであり、こうしたことも踏まえながら、新スポーツ施設構想を再検討する必要があると考えている。

〔委員〕

数年前、新しい体育施設について市民や利用者の方を集めて構想について意見を聞く場を設けられた。エイトアリーナは観客席がなく、次の出番を待つ選手の控えるところも無く、不便に感じている方も少なくないと思う。増築にあわせて体育館上部に観客席が出来れば新しい体育館の代わりになるのではと思っていた。

また、八潮市には武道場がなく、武道をしている方からも総合体育館への期待は大きいのではないかな。

〔委員長〕

エイトアリーナが国体に合わせて作られた経緯があるという説明があったが、このようなきっかけがないと自前で全て建て替えるのは大変だと思われる。

〔事務局〕

学校体育館が地域に解放されているため、地域の体育館は各エリアに存在しており、加えて、大会が開催できるような拠点施設が1つあれば良いという考え方は、シンプルで分かりやすく、他の自治体でも採用されている考え方である。こうした考え方やエイトアリーナへの投資を行ってきたことなどを総合的に勘案しながら、市として体育施設の構想を再検討する必要があると考える。

〔委員長〕

文化施設については、生涯楽習館の大規模改修を行うという話であった。

〔事務局〕

生涯楽習館は、大規模改修で児童館との複合施設にリニューアルする予定。現在、工事設計が概ね完了しており、来年度から工事に着手する予定。また、メセナについては、近年の空調故障を契機に、改修についての検討が始まったところである。

〔委員長〕

多摩市では、大小2つのホールがあったが、設備の維持管理や人員の確保など費

用がかかることもあり、小さいホールは廃止した。利用者から小さいからこそ使い勝手が良かったとの意見があり、市内で使える代替施設として大学の施設（体育館、大教室等）や市内企業の施設等を貸出することを大学等と協定を結んで提供した経緯がある。

〔事務局〕

八潮市のホールは1施設のみである。改修中には、利用停止期間が発生するものと考えているが、市民生活への影響を最小限にするよう検討する必要がある。なお、生涯楽習館についても、来年度からの大規模改修に伴う利用停止を予定している。

〔委員長〕

生涯楽習館については、大規模改修で、今より多くの方々が訪れる施設になるということか。

〔事務局〕

そうなっている。

〔委員長〕

八潮市では学童に児童館機能は入っているのか。

〔事務局〕

学童は利用登録が必要だが、児童館は誰でも利用できる施設であり、それぞれ別で運営している。

〔委員長〕

生涯楽習館に児童館が入るということは、誰でも使えるようになるということか。

〔事務局〕

その通り。リニューアル後は、子どもから大人まで集まるような施設になることを期待している。

〔委員長〕

多摩市では、子どもが遊びに行ける場所が少ないため、児童館は人気施設。子ども

が行って良い場所であり、先生がついているため親も安心して預けられる施設。

〔事務局〕

八潮市は1施設のみの児童館が利用停止となってしまう、現在は臨時で移動児童館という形で公民館を毎月回って運営している。生涯学習館に児童館機能を入れる予定だが、子どもは長距離の移動ができないことを考慮すると、移動児童館は引き続き運営するべきではという意見もある。

〔委員〕

生涯学習館に入る児童館機能は、どのようなものを用意する予定か。文化スポーツセンターに入っていた児童館は、場所を提供し、子どもたちが自由に遊べるような空間であった。

〔事務局〕

文化スポーツセンターに入っていた児童館と同様、子どもたちが自由に遊べるような年齢別に部屋をいくつか設ける予定。

〔委員長〕

市に1つというよりは規模が小さくても良いので子どもが自分で行けるような場所にあったほうが良いと思う。

〔事務局〕

そういう意味でも地区にある公共施設を活用した移動児童館は引き続き運営したほうが良いと考えているところ。放課後の子どもの居場所作りは重要である。

〔委員長〕

世田谷区では、「おでかけひろば」と称して親が赤ちゃんを連れて集まれる場所を提供している。集まれる場所は施設ではなく、区が貸出場所を募集し、応募があった場所で、例えば小児科の休診日にクリニックの一室を提供いただいたり、大きなお宅の一室を提供いただいたりしている。1980年代から地域貢献型事業として進められた事業で、当時新しく施設を区内に作れない状況があり、貸出場所の募集をはじめた経緯がある。移動児童館に限らず、居場所の作り方には色々と手法がある。

駅前のアネックスの利用率はどのくらいか。

〔事務局〕

利用率は高い。立地的に企業に会議室として貸したり、着付け教室や塾の場所として提供している。

〔委員〕

老人福祉センターについては、送迎バスが出ているため利用者が多い。

〔事務局〕

原則としては市で1施設に集約化する方向が望ましいと考えているが、高齢化が進んでいくことを見据え、施設の運用方法や、ソフト面での対策を、しっかり検討する必要がある。

〔委員〕

新しい土地に新しい施設を作るよりは、既存の施設を改修するほうが費用的には安価なのではないか。すえひろ荘の場合は、東埼玉資源環境組合のごみ処理施設があり、その稼働熱を利用して風呂場の提供をしている。また、高齢者の方が軽運動のできるような器具等を置いておくと健康維持やフレイル予防につながると考える。

〔委員〕

介護予防施設に関して、町会の公民館を活用するのはどうか。

〔事務局〕

寿楽荘及びすえひろ荘は同時期に整備され、ともに老朽化が進行しているため、一般的には、集約化して新施設を整備するほうが費用は安価になるといわれている。一方で、仮に集約化する場合には、施設までの距離が遠くなってしまう方も出てしまうので、他の公共施設を活用して健康教室の開催など、ソフト面の対策も併せて検討する必要があると考える。

〔委員〕

町会に対する意識や町会加入者のやる気などが変わってくるのではないか。町会の組織力というものを次の世代にバトンタッチできるよう仕組みを変えていければ、新しい公共施設に投資することも大事だが、行きやすい場所が増えるのではないか。

〔委員長〕

町会の加入率は低いのか。

〔事務局〕

転入者が多いため、周りと比べて加入率は低い状況だと考えられる。

〔委員〕

町会によっては加入していない方に対しても行事に参加できると声掛けを行っているところもある。

〔委員〕

今後は横のつながりが大事になると考え、積極的に町会活動に参加している。

〔委員長〕

世田谷区の自治会では、加入の有無にかかわらず、年2回の防災訓練に参加するよう求められている。

〔委員〕

八潮市でも町会ごとに自主防災組織が設置されているが、減ってきている状況。

給食センターについては、様々な意見が見受けられる。

〔事務局〕

様々な意見があることは承知しており、市としては、丁寧に検討を進めている状況。

〔委員〕

以前、教育委員会から北部拠点整備に関する地域への説明会があった際には、自動車の往来が増加するため、学校の子どもたちが外で活動できる状況か判断できるようPM2.5の測定器の設置について発言した。

〔副委員長〕

本会議では、各施設の方向性について示された内容をたたき台にして議論を進めていくということか。

〔事務局〕

現状、本日ご説明した事項について、庁内で議論しているところである。ご意見・ご指摘があればお伺いしたい。

〔副委員長〕

各施設の方向性については、建設費のほかに毎年の維持管理費など財政的な裏付けはどこまで見ているのか。

〔事務局〕

建設費については、ある程度の規模感は把握できており、施設ごとに時期をずらして整備するよう調整する必要がある。ランニングコストについては、施設の規模や構造が大きく影響するため、現時点で把握することは困難と考えている。

3 その他

次回の開催予定は1月頃を予定している。

4 閉 会